

平成22年度第1回技術研究開発評価委員会〈議事要旨〉

1. 日 時：平成22年7月21日（水）
2. 場 所：中央合同庁舎2号館共用会議室4
3. 出席者（五十音順、敬称略）
：魚本健人、嘉門雅史、見城美枝子、清水英範、土屋幸三郎、戸河里敏、松村秀一
4. 議 事：（1）総合技術開発プロジェクトについて
（2）総合技術開発プロジェクト課題の事前評価について
 - ①高度な国土管理のための複数の衛星測位システム（マルチ GNSS）による高精度測位技術の開発
 - ②中古住宅流通促進・ストック再生に向けた既存住宅等の性能評価技術の開発
5. 配布資料

[資料1](#)：総合技術開発プロジェクト課題について

○高度な国土管理のための複数の衛星測位システム（マルチ GNSS）による高精度測位技術の開発

[資料2-1](#)：事前評価表

[資料2-2](#)：発表資料

○中古住宅流通促進・ストック再生に向けた既存住宅等の性能評価技術の開発

[資料3-1](#)：事前評価表

[資料3-2](#)：発表資料

6. 議事要旨

平成23年度の新規要求課題候補について事前評価を実施するため、外部有識者会議を開催した。委員からの主な意見は以下のとおり。

①「高度な国土管理のための複数の衛星測位システム（マルチ GNSS）による高精度測位技術の開発」について

・ビル陰等により GPS 衛星からの電波の受信が困難な都市部等においても、複数の衛星測位システムのデータを統合的に利用し、短時間で安定的な位置情報を取得し、測量や地殻変動量の把握等に適用するための技術開発を行う本研究は、必要性が高い課題であると評価する。

研究の実施にあたっては、これまでに蓄積されている測位衛星を測量等に活用する技術や知見を生かしながら、国際展開も視野に産学との連携のもと効率的に進められたい。

②「中古住宅流通促進・ストック再生に向けた既存住宅等の性能評価技術の開発」について

・設計図書が散逸した既存住宅等の性能を効率的に評価する技術を開発し、中古・リフォーム市場の活性化等を実現させようとする本研究は、必要性が高いと評価する。

研究の実施にあたって、現況検査手法の検討には形状や仕様だけでは判らない施工状態の確認の観点も加えることを検討されたい。また、本研究の成果がより効果的に活用されるよう、一般の工務店等にとっても使い勝手のいいシステムとなるよう留意されたい。さらに、本研究と合わせて、所有者にとって資産価値向上のインセンティブとなるような仕組みの検討にも取り組んでほしい。

以上